

第4回総会 平成25年度事業報告

一般社団法人 保険薬局経営者連合会は、平成25年度も前年度に引き続き、法人としての組織基盤を固め、積極的な情報発信、プロジェクト活動、広報活動を行い、連合会の存在の認知を深めるとともに会員の拡大を目指した。

1. 年間活動報告

1月19日	協議会	九州・山口地区での協議会 支部の役割等の確認
1月20日	連絡会	九州・山口地区での協議会についての報告
2月3日	理事会	第3回総会の確認、事業説明についての確認
2月24日	総会	事業報告、決算報告、事業計画案、予算案の承認 今後の展望として 流通マネジメント・ブランド化戦略 有害事象情報共有アプリケーション シンクタンク設立
3月24日	連絡会	総会を振り返って・事業の運営方法
4月21日	連絡会	フォーラム内容の検討、人事部アンケート実施について
5月11日	合宿	プロジェクト推進・人事部構想
5月12日	理事会	合宿詳細報告 人事部構想・シンクタンク構想について
6月16日	連絡会	フォーラム内容について・シンクタンク構想について
7月20日	協議会	人事部意見交換会
7月21日	理事会	フォーラム内容の確認
7月21日		フォーラム2013 医薬分業の再定義 薬経連人材マネジメント 有害事象情報共有アプリケーション シンクタンクの設立
9月8日	連絡会	シンクタンク設立について
9月22日	説明会	日薬学術大会(大阪)にてシンクタンク設立について
10月1日	設立	シンクタンク(株)薬事政策研究所設立
10月11日	説明会	薬事政策研究所 設立説明会(九州)
10月20日	連絡会	人事部構想・薬事政策研究所について
11月17日	説明会	薬事政策研究所 設立説明会(東京)
11月17日	理事会	薬事政策研究所 設立説明会確認・第4回総会について
12月15日	連絡会	第4回総会について

2. 事業内容報告

① 会の社会貢献業務の遂行に必要な施策の立案(シンクタンク機能等)

シンクタンク「株式会社薬事政策研究所」(薬研)を設立した。

② 会員貢献に関する事業

(1) 薬局経営マネジメント (BSC、職能要件書の活用)

2012年1月にBSC参加会員の募集を行い、説明会等の参加は12社あったが実際に実施したのは有限会社レガロ薬局1社で現在も二年目継続中である。

BSCを実施して良かった事

- [1] 現状分析(3C分析・SWOT分析)・計画立案から社員に参画してもらうことで、目標に対して社員が自主的に動き、提案等が活発に挙がってくるようになった。
- [2] 目標設定やアクションプラン設定に漏れが少なくなった。
- [3] 勘に頼って目標を策定していた時より、目標のトレースが継続的に実行できるようになった。PDCAサイクルが回るようになった。

BSC実施での課題

- [1] 一薬局単位で実施すると中長期目標は機能するが、短期目標は外部環境による影響の方が大きいためプロセスの到達度と実績が相関しないことがある。
- [2] 一薬局単位の規模だとPDCAサイクルが回るまでの労力が大きい。

BSCの新規参加薬局が無いので新たな展開を行う予定はありませんが、BSCについてノウハウは伝授できるので実施を希望する方は事務局にご連絡ください。

(2) 医薬品流通関連マネジメント (ヤマトメディカルダイレクトを利用した取り組み)

既存の医薬品卸に頼らない医薬品の新しい流通スタイルとして、ヤマトロジスティックスの「ヤマトメディカルダイレクト」との連携を本年度も継続して行った。春、秋の薬価収載ジェネリック医薬品の会員向けの協同購入をすすめた。

現在、取扱いメーカーの拡大をめざし、さらに魅力ある商品構成の実現を目指している。また、医薬品だけでなく機能食品などを取り扱えるように現在検討中である。

(3) 薬経連ICTシステム構築

薬局経営者による政策提言の仕組みを実現するために、まず政策のエビデンスとなるデータを薬局業務を通じて蓄積するシステムの開発を目指した。そのシステムのコアとなるべき機能を抽出し、まずは薬学的サービスの根幹をなす有害事象管理について、生データを共有するアプリケーション「Prairiedog」を開発、公開。今後の事業は薬研で継続する。

(4) 薬局ブランド化への支援

[1] 人事マネジメント (薬剤師採用、派遣、人材育成等)

人事について会員内アンケート調査を実施。現状と課題を分析し、人事部を設立、研修事業から平成26年度から開始することに決定。今後の事業は薬研で継続する。

(5) 関連学会との共同研究

長期間の薬物療法を継続している患者が増える中、医薬品が適切に使用されているか、予期しない事象が生じていないか、など治療効果や安全性の向上に地域の薬剤師が積極的に関わるメリットを示すために、アプライドセラピューテクス学会とタイアップし地域薬局における患者登録制度を作った。現在、薬剤師の関与と患者アウトカムの評価をすすめている。